



棟梁集

六

2  
4772  
4



門 2  
號 4772  
卷 4



昭和四年二月廿  
高田早苗氏贈

田子大坂

棟梁集六

千石丸

カク  
丸

コリヤ

松屋棟梁集



春部

雪中篇

雪の雪の梅のより一雪年かゝる人  
みえそす

名所若菜

日よみ大い糸の原おとそ雪は  
ついでにうらな

雪有歡乎

松屋大綱

あはれなる花のよこえはよきまじりし  
うしろこまやまじり

依風知梅

四方の梅さきと見よきうばてぬまの  
きのおせうし

雪

浪みよ強きつねのねあけのちり  
あれのまみり

やしのま

三つうわ

結糸

くさのまじりしはかきまの鏡の  
みよもかり

春歌

老鳥の時しを歌よ若くまをま  
あまのまじり

窓梅

人香まじりくまじり物吹

言のふくむる

言

籠の園子 枝をさかすいふらんあま  
かひえぬらん秋のころ

山河のおもたれし 片身よけのたつ  
さあき雪のとき

之書に

波とがし 氷のてらまよふそく入はる  
れぬのえけり

木のふのまへ

世書子

つらき秋はさくく何しとて  
あくるしちとてけり

書記

君のたのふあらの秋は  
まきのせぬらん

書世書

ふのねも 雲をけり  
こころをいふて  
あま

かゝる人ぞとて

字法のまゝに  
かゝる人ぞとて

あ

りえ出しし摩訶  
瓜はちや若狭がうり  
田

若狭

とよきとて海より日  
もくもくやあまを  
あうとてうりけし

若狭  
若狭

橋をたふす言ふ  
はるかに  
あまを

若狭

船ひきし海のおと  
ち舟のほろけうま  
若狭

若狭

なれり  
あまを  
若狭

若狭

しつりなるしつるのしつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり

山花

おお おお  
おお おお  
おお おお  
おお おお

しつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり

松葉多若

おお おお  
おお おお  
おお おお  
おお おお

しつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり

しつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり

杜花

しつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり

山花

しつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり  
しつり しつり



かきかへし

お春の

しるしとていさびのよきものぞとてりま

まじい位のり

若草

燈のちまを我をせよとてやいふも

歌なるまの若草

梅川

歌はけやあけしとてしるしとてりま

しるしとてあはれなりしとてりま  
お春のまのり

梅若

冬よりしるしとてりま

まのり

朝野

朝野のりしるしとてりま

お春のり

お梅

あかしのうらめしうらめしうらめしうらめしうらめし梅  
こゝろこゝろのうらめし

雪中

雪の音も雪の音も雪の音も雪の音も雪の音も  
はるばるの梅

山霞

ふしのうらめしうらめしうらめしうらめしうらめし  
はるばるの梅

名子記



棟梁集

梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅  
はるばるの梅

まつたまのうらめしうらめしうらめしうらめしうらめし  
梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅

田五月雨

五月雨の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅  
梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅の梅

花雨

除本ぬる田代かよふ  
あしときぬる花信

社頭花

天中非きあまのゆきなるあま  
きくも花のたのむやこ

花のたのむやこ

はるきぬるあまのゆきなるあま  
あまのゆきなるあまのゆきなるあま

花のたのむやこ

はるきぬるあまのゆきなるあま  
あまのゆきなるあまのゆきなるあま

花のたのむやこ

はるきぬるあまのゆきなるあま  
あまのゆきなるあまのゆきなるあま

花のたのむやこ

はるきぬるあまのゆきなるあま  
あまのゆきなるあまのゆきなるあま

花のたのむやこ

あまのゆきなるあまのゆきなるあま

よーはひこまの海とみかのみ  
花のまよふ若のくまひ

尋常集

夏衣はむらさきもみぢ  
水もみぢもみぢもみぢ  
まゆのちの桜のちみぢ  
よーはひこま

よーはひこまの海とみかのみ  
花のまよふ若のくまひ

陸奥国の白川

梨院の吟句

まゝのりー 見れば眼の女皆

とふまゝの我は若女也

わびーの 木をさふまの

くもあまのやこは本さく

かゝひうけあまのうら

みかひのけぬまのまひ

今もさうさうの

古今集

山崎

いけさるる人々の柳より  
とよみ

地とあり。かゝるの今れ若柳の  
油のわきま

いせのいせのいせのいせのいせ  
油のいせ

いせ

いせのいせのいせのいせのいせ  
いせ

山崎

いせ

いせのいせのいせのいせのいせ  
いせ

いせのいせのいせのいせのいせ  
いせ

いせ

いせのいせのいせのいせのいせ  
いせ

いせのいせのいせのいせのいせ  
いせ

山崎

母らの方の忠告は御座る  
此のいふ通り一々さしその  
ふせむゆゑに盡くはる  
彦太氏に請ひあはせし力  
より成さざりしあはるる  
その母のいふおぼえ  
ふせむ

ふせむのいふおぼえ  
おぼえにあらざりし  
あはるる  
その母のいふおぼえ  
ふせむ

りりそと母おとすくまふあふ  
おーようおはきあふあ

海和

おあしあしあふあふあふあふあ  
あふあふあふあふあふあふあ

あふあふあふあふあふあふあ  
あふあふあふあふあふあふあ

海和

りりおとあふあふあふあふあ

りりあふあふあ

あふあふあふあふあふあふあ  
あふあふあふあふあふあふあ

あふあふあふあふあふあふあ

あふあふあふあふあふあふあ

あふあふあ

あふあふあふあふあふあふあ  
あふあふあふあふあふあふあ

松村

あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは

あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは

あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは

松村

あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは

松村

あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは

松村

あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは  
あはれこころのこころは



取返し

七地座のまゝに世のまゝに海のまゝに  
とて引かぬ

白のま

精進女は二つに二つに  
思ひのまゝに

新縁花

思ひのまゝに  
花のまゝに

更

今更のまゝに  
花のまゝに

花のまゝに

花のまゝに

花

とて引かぬ  
花のまゝに

花

櫻のうらみあうーくまのまゝにふりかへん  
世のうらみあうの世

歌を蔵持

少の世のうらみあうのうらみあう  
うらみあうのうらみあう

まごおやを

まごおやのうらみあうのうらみあう  
まごおやのうらみあう

早稲島

早稲島のうらみあうのうらみあう  
早稲島のうらみあう

牡丹

牡丹のうらみあうのうらみあう  
牡丹のうらみあう

牡丹のうらみあうのうらみあう

橋

橋のうらみあうのうらみあう  
橋のうらみあう

橋のうらみあうのうらみあう

三日月

三つあやふはらふのほしきや秋  
三つあやふはらふのほしきや秋

秋  
三つあやふはらふのほしきや秋

神さちのちあやふはらふのほしきや秋  
とあやふはらふのほしきや秋

秋  
とあやふはらふのほしきや秋

水さくあやふはらふのほしきや秋  
あやふはらふのほしきや秋

鳥の

あやふはらふのほしきや秋  
あやふはらふのほしきや秋

久保兵衛のほしきや秋  
あやふはらふのほしきや秋

あやふはらふのほしきや秋  
あやふはらふのほしきや秋

あやふはらふのほしきや秋  
あやふはらふのほしきや秋

今ねのこころ

こころよしのちかきこころよしのちかき

こころよしのちかきこころよしのちかき

るな

中なる物にあはれ 春の子はあはれ

物あはれをこころよ

世はあはれをこころよのちかきこころよ

あはれをこころよのちかきこころよ

あはれをこころよのちかきこころよ

きけいしんじのあはれ

忍び

あはれをこころよのちかきこころよ

あはれをこころよのちかきこころよ

あはれをこころよのちかきこころよ

あはれをこころよのちかきこころよ

あはれ

あはれをこころよのちかきこころよ

あはれをこころよのちかきこころよ

八四七

あつしそめいふうせし露のいの  
くもあたらふあまのね

おとせ

かきりぬみちこのほろもねをいそ  
てそはくしそめいふうせし  
うしうしうしうしうしうしうし  
やえみさしまのうし

おとせ

あつしそめいふうせし露のいの  
くもあたらふあまのね  
あつしそめいふうせし露のいの  
くもあたらふあまのね

おとせ

あつしそめいふうせし露のいの  
くもあたらふあまのね  
あつしそめいふうせし露のいの  
くもあたらふあまのね

おとせ

あつしそめいふうせし露のいの  
くもあたらふあまのね

きりこのあはれいふかたは

あはれいふ

あはれいふかたはあはれいふかたは  
あはれいふかたはあはれいふかたは  
あはれいふかたはあはれいふかたは

あはれいふ

あはれいふかたはあはれいふかたは  
あはれいふかたはあはれいふかたは  
あはれいふかたはあはれいふかたは  
あはれいふかたはあはれいふかたは  
あはれいふかたはあはれいふかたは

あはれいふかたはあはれいふかたは

あはれいふかたはあはれいふかたは

あはれいふかたはあはれいふかたは

あはれいふかたはあはれいふかたは

あはれいふかたはあはれいふかたは

あはれいふかたはあはれいふかたは

あはれいふかたはあはれいふかたは

あはれいふかたはあはれいふかたは

あはれいふかたはあはれいふかたは

昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...

昔々...

昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...

昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...

昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...  
 昔々... 昔の... 昔々...

よけきしふねなるあふもよきか  
ぬかきしとせしあまのりて  
けしあまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて

あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて  
あまのりてあまのりて



口野らつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ

あきつゝあひとあふみのくしあひ

あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ

### あきつゝあひとあふみのくしあひ

あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ  
あきつゝあひとあふみのくしあひ

あきつゝあひとあふみのくしあひ

あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も

今いふものありまは  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も  
あまのつたねあやむし今も

あまのつたねあやむし今も

あし の さきさき へききぬ  
院内平河の里わつ 鈴木新  
教のあまやうの坊にたす  
わつ安房屋ととまの楳の上を  
せ川 通ぬるあまにさあつて  
あまの坊にたすあまにさあつて  
わつ  
おち方り一月まるの月をたあふ  
とんといからあまの

今かにとまんとしるあまの  
けわいしあまのあまのあ  
まのあまのあまのあま  
わつ  
まのあまのあまのあまのあ  
まのあまのあまのあまのあ  
夏月易明  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ

五月五日

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

角

神

神

神

神

神

稀

中

中

中

中

新

中

中

中

中

中

菊の香を嗅げし

取のみのくさるるの あはれ

手の上の あはれ のたれん あはれ

うら あはれ の あはれ の あはれ

あはれ の あはれ の あはれ

あはれ の あはれ の あはれ

て

あはれ あはれ の あはれ の あはれ

あはれ あはれ の あはれ の あはれ

あはれ あはれ の あはれ の あはれ

あはれ あはれ の あはれ の あはれ

あはれ あはれ の あはれ の あはれ

あはれ あはれ の あはれ の あはれ

あはれ あはれ の あはれ の あはれ

あはれ あはれ の あはれ の あはれ

あはれ あはれ の あはれ の あはれ

あはれ あはれ の あはれ の あはれ

小舟月夜

歌学秋賦

一、此の記は、  
ついでに、  
ついでに、

ついでに、  
ついでに、  
ついでに、

ついでに、  
ついでに、  
ついでに、

ついでに、  
ついでに、  
ついでに、

ついでに、  
ついでに、  
ついでに、

ついでに、  
ついでに、  
ついでに、

敬愛

敬愛

ふりかへりこころのしづかき  
秋の草花  
あふれわたるの **津** しのぶのあけぼの  
永世の秋のしづかき  
入江時行の **秋** しのぶの  
君は隠国を海の里に  
おつりてきて  
父のふたりの **それ** くれか  
西のあけぼのしづかき

秋の草花

ふりかへりこころのしづかき  
秋の草花  
あふれわたるの **津** しのぶのあけぼの  
永世の秋のしづかき  
入江時行の **秋** しのぶの  
君は隠国を海の里に  
おつりてきて  
父のふたりの **それ** くれか  
西のあけぼのしづかき

秋の草花



いづれか... のまゝある。 ~~...~~  
しんげい... ちがふまゝ  
ついでに... のおまへ  
あつた...  
あつた...  
あつた...

初秋

あつた... おるあ今日  
あつた...  
あつた...  
あつた...

道解政義のしりしり

夏懐のしりしり

あつた... のまゝある。  
あつた...  
あつた...  
あつた...

七夕歌

あつた... のまゝある。  
あつた...  
あつた...  
あつた...

若文子

あつた... のまゝある。  
あつた...  
あつた...  
あつた...

秋の月と秋の夜と  
女部も嘆き 秋の月と秋の夜と  
よのけしとや 秋の月と秋の夜と

昔の覺悔意

こゝろよぬいさよと目もあはれ  
びんよえぬやうや

何れも

の氣も

あはれ みる書字もよりの水

やうめあはれや

秋の月

いづくもよと秋の月と

昔の

床裏こころと秋の月と

こころの秋の月と

子夜半と秋の月と

秋の月と秋の月と

昔のものは地物なりと  
わづらひなきに云ふと  
わづらひなきに云ふと  
はるものもあつた昔は  
かまひのつらさや  
けつみやけりの物蔵を  
ひきよめて二つに分けて  
いそいそとせりばあつた  
あつたやうなものである

みてもおぼろしくなつた  
あつたやうなものである  
さう考へておぼろしくな  
つたやうなものである  
さう考へておぼろしくな  
つたやうなものである  
さう考へておぼろしくな  
つたやうなものである  
さう考へておぼろしくな  
つたやうなものである  
さう考へておぼろしくな  
つたやうなものである

あつたやうなものである

あつりましははつりしつらまの  
 秋のつらみきうし

あつりましははつりしつらまの

うい

~~あつりましははつりしつらまの~~

~~あつりましははつりしつらまの~~

~~あつりましははつりしつらまの~~

~~あつりましははつりしつらまの~~

あつりましははつりしつらまの

あつりましははつりしつらまの

葛凡

あつりましははつりしつらまの

あつりましははつりしつらまの

葛凡

あつりましははつりしつらまの

あつりましははつりしつらまの

富士

あつりましははつりしつらまの

あつりましははつりしつらまの

あつりましははつりしつらまの  
 あつりましははつりしつらまの  
 あつりましははつりしつらまの

長曾根又まおはしあつた  
見ゆかぬ人としめをうけ  
人こそはつた  
かほり人なき原の心あ  
かきまのあけ

田舎初秋

かきまのあけ  
の穂たふたけ  
初秋川

かきまのあけ  
かきまのあけ  
かきまのあけ  
かきまのあけ

美登月

かきまのあけ  
かきまのあけ  
かきまのあけ  
かきまのあけ

三の社恋

かきまのあけ  
かきまのあけ  
かきまのあけ  
かきまのあけ

芳人さくしあけの玉垣

あはてのこあるの影さけりし

あま子まゝとてみしゆのちかひ

玉垣

~~たにてんりまゝの~~ ~~あまの~~

~~こがれきりぬの~~

七言志

まの ~~あま~~

きまひつりまゝあつむる意の

うや ~~あま~~

おぼ

ひの ~~あま~~

あま ~~あま~~

あま ~~あま~~

あま ~~あま~~

あま ~~あま~~

あま ~~あま~~

あま



カ

世に於ては... 阿彌陀佛

中意

阿彌陀佛... 阿彌陀佛

阿彌陀佛

阿彌陀佛... 阿彌陀佛



阿彌陀佛

阿彌陀佛... 阿彌陀佛

阿彌陀佛

阿彌陀佛... 阿彌陀佛

阿彌陀佛

阿彌陀佛... 阿彌陀佛



かゝる思の情も 時の流るる  
まの河子流

初秋の

何まにわらふる恋をあらはるん  
相参りていへの刺る  
心計りなれどもしん中しん  
わらふる今秋のあはる

絶後思恋

今更なること人のわらふるあはる

先てえりやわらふる

冬恋

雪えぬとうけも居るあはる  
うらむのけのあはる

駈向別家々わらふる

いさか防家々のあはる

しるし ~~あはる~~ あはる

しるし 糸のあはる

糸のあはる

秋恋

しんせいのこゝろをいふ

のうたをいふ

とくしあふまゝのこゝろをいふ

こゝろをいふ

いづらふまゝのこゝろをいふ

あゝとくしあふまゝのこゝろをいふ

### 仲秋書月

しんせいのこゝろをいふ

のうたをいふ

月をいふ

### 海上月

### 海上月

月をいふ

月をいふ

### 海上月

月をいふ

場のろろの意の月ありき  
おつづつわと 意の初子居のるよ  
初子つづつら月うけ

向上げ

幸後のはちあ新子打くつて  
すうと子初めゆと  
十五夜の子んを  
三ヶ ぼつ  
くわ

うつうのふいなるのふらと  
三ヶ

おまけ

さーちのふれんたのふい  
うみかえんや

おまけ

お月うみまのつちのふい  
も

春岸月籠

そふたのふし物の子れ君の剣を  
いとけりあはれはうさうさ

摺門は地の伊勢の国一也

あかのきりぎりす

りまのふとあつとふあふ  
まぬしと神のつれぬ

湖上観月

秋のふしと水子浮るん  
うはらぬる御方の湖

いふいふ舟あつとあつと  
根のゆのけなつと

二宮中宮

あつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

旅泊月

あつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつと

雲と花の歌の字を記す

花也

ふさふさいふのちのちのまをなぬるこ  
ましくいふ花のまをなぬるこ  
くらくくまをなぬるこ  
くまをなぬるこ

花のまを

わらくていふのちのちのまをなぬるこ  
くらくていふのちのちのまをなぬるこ

花のまを

物 **花** のまをなぬるこ  
そのまをなぬるこ

花のまを

君の家をなぬるこ  
おもしろい花のまをなぬるこ

花のまを

つやとまをなぬるこ  
おもしろい花のまをなぬるこ

花のまを

紅葉

奥深くはなはたきみさしと  
ほせみやまのきこ

夕照

きこひのこけのきこひと  
つねにすくひのきこ

紅葉

きこひのきこひのきこひ  
つねにすくひのきこ

紅葉

きこひのきこひのきこひ  
つねにすくひのきこ

夕照

きこひのきこひのきこひ  
つねにすくひのきこ

夕照

了りてとるよのまよふあはれ  
舟を杖よきくまらる

紅葉風

うらぐれ 舟又のこころよ

舟のこころよ

つよ舟月

せの庭のわしこく一巻の物まよは

らう月のまよいとよきまぬ

とれやうまひもあけなまいらせり

あつみやつひの月の新

翠 舟村とよの舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟

田上舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟

さいきふきしあくるの橋をうりしとて  
あまのよあぢりつ

雨後紅雲

こよひしにこふら〜  
一おひのあふとみち

雲の秋氣

りれき一節のよとこよくのもよひ  
うつろふとこ〜

江鳴神

梅嶺の毎がこころ舟人〜  
と〜

梓弓下しのきりちよあ〜  
あ〜

靈巖寺誠阿比子〜

川の名きり〜

門のしら〜  
あ〜

水鳥の伝説

及学大頭



夕ぐれの中をのいちかきしき  
こころもさよらうのほろし  
こころも又ほろかよまはし  
さよらうのつたふらのそ

秋懐四

あつたのせしきあつたの  
あつたのせしきあつたの  
あつたのせしきあつたの

田吹三重明のつく

らかのとるまはま

くもりのほろしきと  
らかの子孫

残菊

あつたのせしきあつたの  
あつたのせしきあつたの

鶯

あつたのせしきあつたの  
あつたのせしきあつたの

冥村

おとこいふこいふおとこいふ  
おとこいふおとこいふ  
おとこいふおとこいふ

おとこ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

おとこいふ

おとこいふおとこいふおとこいふ

けづらひの

あはれ

たぢのよほのちちか

半のあはれ

あはれ

のちのちのちのち

のちのちのち

のちのちのち

のちのちのち

二定実の子

持助の子のちのち

のちのちのち

あはれ

のちのちのち

のちのちのち

あはれ

のちのちのち

のちのちのち

字新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編

二二の日記

二二の日記  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編  
あきらめ新編





